

(2) エコファーマー指針に基づく生産方式の導入計画

作物名		現状	目標年度 (9年)	
生産方式導入作物	水稲	生産方式導入面積	500 a	500 a
		全作付面積	1,000 a	1,000 a
	スイカ	生産方式導入面積	0 a	100 a
		全作付面積	100 a	100 a
	ナス	生産方式導入面積	50 a	50 a
		全作付面積	100 a	120 a
		生産方式導入面積		
		全作付面積		
	生産方式導入合計	生産方式導入面積	550 a	650 a
		全作付面積	1,200 a	1,220 a
その他作物 ()				
合計		1,200 a	1,220 a	

経営面積の概ね2分の1以上を満たしているため、認定

(課題と取組)
【生産に関する取組】
 ○○が課題となっており、・・・に取り組む。
(具体的な活動内容)
 ・土壌診断を行い、地域の畜産堆肥を活用した土づくりを実施
 ・温湯処理による種子消毒を実施

【販売に関する取組】
 ○○を実施し、販売を強化していく。
 また、産地交流会を通じて消費者への理解の促進にも取り組む。

注1 目標年度には、エコファーマー指針に基づく生産方式の導入の実施期間の最終年を記載すること。最終年は5年間を目途に定めること。
 2 作付面積には、借入地面積(受託地面積)を含む。
 3 面積は延べ作付面積で記入すること。

(3) エコファーマー指針に基づく生産方式

作物名	水稻 (コシヒカリ・移植)	現 状		目 標	
		収 量	500 kg/10a	600 kg/10a	
土づくり技術			t /10a	t /10a	
<input checked="" type="checkbox"/> 堆肥等有機質資材施用技術 <input type="checkbox"/> 緑肥作物利用技術 <input type="checkbox"/> その他 ()	資材名・施用量	資材名を記入	C/N比	C/N比	資材名を記入
	窒素量	1.2 KgN/10a		1.2 KgN/10a	
化学肥料低減技術（施肥技術）			kg/10a	kg/10a	
<input type="checkbox"/> 局所施肥技術 <input type="checkbox"/> 肥効調節型肥料施用技術 <input checked="" type="checkbox"/> 有機質肥料施用技術 <input type="checkbox"/> その他 ()	資材名・使用量	県の慣行基準		資材名の記入	
	化学性窒素量	7 KgN/10a		5.6 KgN/10a	
化学合成農薬低減技術（防除技術）			回	回	
<input checked="" type="checkbox"/> 機械除草技術 <input checked="" type="checkbox"/> 除草用動物利用技術 <input type="checkbox"/> 生物農薬利用技術 <input type="checkbox"/> 対抗植物利用技術 <input type="checkbox"/> 被覆栽培技術 <input type="checkbox"/> フェロモン剤利用技術 <input type="checkbox"/> マルチ栽培技術 <input checked="" type="checkbox"/> 温湯種子消毒技術 <input type="checkbox"/> 抵抗性品種栽培・台木利用技術 <input type="checkbox"/> 熱利用土壌消毒技術 <input type="checkbox"/> 光利用技術 <input type="checkbox"/> 土壌還元消毒技術 <input type="checkbox"/> その他 ()	資材名・使用回数（延成分数）	県の慣行基準		農薬名の記入	
	総使用回数（延成分数）	20 回		16 回	

注1 各技術において、導入する技術にチェック（レ）をつけること。

2 「現状」には、申請者の直近の使用量または、地域の慣行的な生産方式に基づく使用量などを記載すること。

(3) エコファーマー指針に基づく生産方式

作物名	スイカ (露地)	現 状		目 標	
		収 量	2,900kg/10a	3,000kg/10a	
土づくり技術			t /10a	t /10a	
<input checked="" type="checkbox"/> 堆肥等有機質資材施用技術 <input type="checkbox"/> 緑肥作物利用技術 <input type="checkbox"/> その他 ()	資材名 ・ 施用量	資材名を記入	C/N比	C/N比	
	窒素量	1.2KgN/10a		1.2KgN/10a	
化学肥料低減技術 (施肥技術)			kg/10a	kg/10a	
<input type="checkbox"/> 局所施肥技術 <input type="checkbox"/> 肥効調節型肥料施用技術 <input checked="" type="checkbox"/> 有機質肥料施用技術 <input type="checkbox"/> その他 ()	資材名 ・ 使用量	県の慣行基準		資材名の記入	
	化学性窒素量	16KgN/10a		5.6KgN/10a	
化学合成農薬低減技術 (防除技術)			回	回	
<input type="checkbox"/> 機械除草技術 <input type="checkbox"/> 除草用動物利用技術 <input type="checkbox"/> 生物農薬利用技術 <input type="checkbox"/> 対抗植物利用技術 <input type="checkbox"/> 被覆栽培技術 <input type="checkbox"/> フェロモン剤利用技術 <input type="checkbox"/> マルチ栽培技術 <input checked="" type="checkbox"/> 温湯種子消毒技術 <input checked="" type="checkbox"/> 抵抗性品種栽培・台木利用技術 <input type="checkbox"/> 熱利用土壌消毒技術 <input type="checkbox"/> 光利用技術 <input type="checkbox"/> 土壌還元消毒技術 <input type="checkbox"/> その他 ()	資材名 ・ 使用回数 (延成分数)	県の慣行基準		農薬名の記入	
	総使用回数 (延成分数)	22回		16回	

注1 各技術において、導入する技術にチェック (レ) をつけること。

2 「現状」には、申請者の直近の使用量または、地域の慣行的な生産方式に基づく使用量などを記載すること。

(3) エコファーマー指針に基づく生産方式

作物名	ナス	現 状		目 標	
		収 量	5,000kg/10a	5,500kg/10a	
土づくり技術			t /10a	t /10a	
<input checked="" type="checkbox"/> 堆肥等有機質資材施用技術 <input type="checkbox"/> 緑肥作物利用技術 <input type="checkbox"/> その他 ()	資材名・施用量	資材名を記入	C/N比	C/N比	資材名を記入
	窒素量	1.2KgN/10a		1.2KgN/10a	
化学肥料低減技術（施肥技術）			kg/10a	kg/10a	
<input type="checkbox"/> 局所施肥技術 <input type="checkbox"/> 肥効調節型肥料施用技術 <input checked="" type="checkbox"/> 有機質肥料施用技術 <input type="checkbox"/> その他 ()	資材名・使用量	県の慣行基準		資材名の記入	
	化学性窒素量	80KgN/10a		5.6KgN/10a	
化学合成農薬低減技術（防除技術）			回	回	
<input type="checkbox"/> 機械除草技術 <input type="checkbox"/> 除草用動物利用技術 <input type="checkbox"/> 生物農薬利用技術 <input type="checkbox"/> 対抗植物利用技術 <input type="checkbox"/> 被覆栽培技術 <input type="checkbox"/> フェロモン剤利用技術 <input checked="" type="checkbox"/> マルチ栽培技術 <input checked="" type="checkbox"/> 温湯種子消毒技術 <input type="checkbox"/> 抵抗性品種栽培・台木利用技術 <input type="checkbox"/> 熱利用土壌消毒技術 <input type="checkbox"/> 光利用技術 <input type="checkbox"/> 土壌還元消毒技術 <input type="checkbox"/> その他 ()	資材名・使用回数（延成分数）	県の慣行基準		農薬名の記入	
	総使用回数（延成分数）	34回		16回	

注1 各技術において、導入する技術にチェック（レ）をつけること。

2 「現状」には、申請者の直近の使用量または、地域の慣行的な生産方式に基づく使用量などを記載すること。

(4) 経営の持続性の確保に関する事項

個人申請の記載例

申請者名：〇〇ファーム	現状 (4年12月期)	目標 (9年12月期)
ア：経営規模	1,200ha	1,220ha
イ：売上高	●百万円	○百万円
ウ：経営費（生産コスト）	■百万円	□百万円
エ：所得（イーウ）	▲百万円	△百万円

注1 エコファーマー指針に基づく生産方式を導入しない部分も含め、農業経営の全体で記載すること。

- 2 「ア：経営規模」には、農業経営全体の経営面積や生産量、労働力等の現状値および目標値をそれぞれ記載すること。
- 3 「エ：所得」には、農業所得（法人その他の団体にあつては営業利益）の現状値および目標値について記載すること。
- 4 イ、ウ、エに記載する数値は概数でも差し支えない。
- 5 申請者ごとに記載することとし、必要に応じて欄を繰り返し設けて記載すること。

- 3 **エコファーマー指針に基づく生産方式の導入に必要な資金の額およびその調達方法**
エコファーマー指針に基づく生産方式の導入にあたって必要な資金がある場合には、その額および調達方法を別記様式第4号に記載し、添付すること。

4 特例措置の活用に関する事項

申請者、関連措置実施者ごとに別記様式第4号に記載し、添付すること。

5 エコファーマー指針に基づく生産方式の導入に当たっての配慮事項

本計画に基づくエコファーマー指針に基づく生産方式の導入の過程で、新たな環境への負荷が生じることのないよう配慮する事項にチェック（レ）を付けること。

適正な施肥

施肥は、作物に栄養を補給するために不可欠であるが、過剰に施用された肥料成分は環境に影響を及ぼす。このため、都道府県の施肥基準や土壌診断結果等に則して肥料成分の施用量、施用方法を適切にし、効果的・効率的な施肥を行う。

適正な防除

病害虫・雑草が発生しにくい栽培環境づくりに努めるとともに、発生予察情報等を活用し、被害が生じると判断される場合に、必要に応じて防除手段を適切に組み合わせて、効果的・効率的な防除を励行する。また、農薬を用いる場合は、使用、保管は関係法令に基づき適正に行う。

☑ エネルギーの節減

温室効果ガスである二酸化炭素の排出抑制や資源の有効利用等に資するため、ハウスの加温、穀類の乾燥など施設・機械等の使用や導入に際して、不必要・非効率的なエネルギー消費がないよう努める。

□ 悪臭および害虫の発生防止

家畜の飼養・生産に伴う悪臭、害虫の発生は、主として畜舎における家畜の飼養過程や家畜排せつ物の処理・保管過程に起因し、畜産経営への苦情発生要因の中の多くを占めることから、その防止・低減に資するため、畜舎からのふん尿の早期搬出や施設内外の清掃など、家畜の飼養・生産に伴う悪臭、害虫の発生を防止・低減する取組を励行する。

☑ 廃棄物の発生抑制、適正な循環利用および適正な処分

循環型社会の形成に資するため、作物の生産に伴って発生する使用済みプラスチック等の廃棄物の処理は関係法令に基づき適正に行う。また、作物残さ等の有機物についても利用や適正な処理に努める。

☑ 生産情報の記録および保存

生産活動の内容が確認できるよう、肥料・農薬の使用状況等の記録を保存する。

☑ 生物多様性への悪影響の防止

農林漁業は地域の自然環境を形成・維持し、生物多様性に大きな役割を果たしていることを踏まえ、水田の中干しの実施に当たって水生生物の生息環境の保全に配慮するなど、生物多様性への悪影響を防ぐよう努める。

【その他記入欄】

該当がない事項、実行できない事項がある場合には、その理由、改善予定等を記載すること。

[添付資料]

- (1) エコファーマー指針に基づく生産方式を導入する作物を栽培するほ場の位置が判る地図（各ほ場で栽培する作物名が判るようにすること。）
- (2) エコファーマー指針に基づく生産方式を導入する作物を栽培するほ場の土壌診断結果